



株式会社WorkX

テレワーク活用による 企業変革のスピードと成功確率を高める取り組み



会社概要

WorkXは
日本最大級のハイクラスフリーランスプラットフォームを持つ、
上場準備中の“事業会社 兼 DX/AIコンサルティングファーム”です。

会社概要

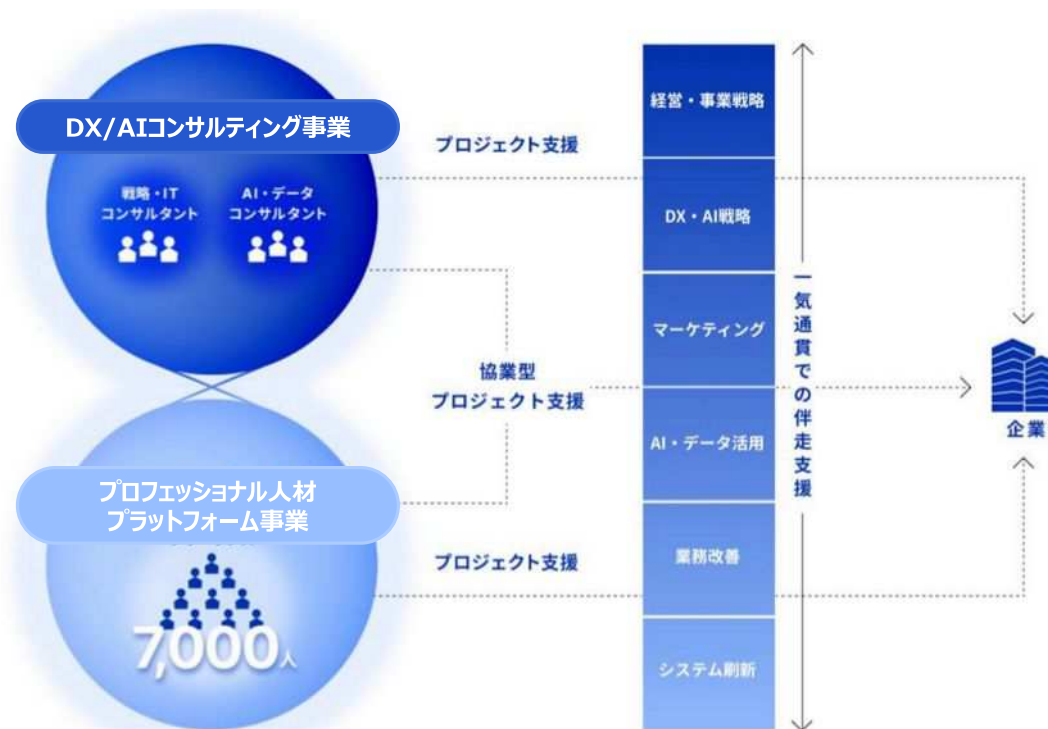
会社名	株式会社WorkX (WorkX Inc.)
代表取締役	東野 智晴
所在地	東京都渋谷区恵比寿四丁目20番3号 恵比寿ガーデンプレイスタワー20階
設立日	2018年10月10日
従業員数	173名 (2026年2月1日時点)
資本金	8,000万円
加入団体	一般社団法人金融データ活用推進協会/FDUA 一般社団法人データサイエンティスト協会

事業内容

- デジタル/データを活用したコンサルティングサービス「LeanXシリーズ」の提供
例)戦略コンサルティング・ITコンサルティング・AI/データコンサルティング等
- フリーランス紹介サービス「ProConnectシリーズ」の開発・運営

ビジネスモデル

高度な専門性を持つコンサルタント × 外部のプロフェッショナル人材により、企業のあらゆる課題を解決します。



WORKX

プロフェッショナル・エコノミーへの変革

「このままでは、日本は2040年ごろに新興国に追いつかれ、海外より豊かでなくなる。」

1990年頃以降、日本経済は依然停滞したまま。

終身雇用・年功序列を続けてきた結果、漫然と企業にしがみつく従業員を増やし、日本の人材競争力は低下の一途を辿っている。

それらを解消しようと日々様々なサービスがリリースされている。

ただし、サービスやテクノロジーだけで社会は変わらない。

ビジネスに実装するプロフェッショナルの存在が変革の鍵を握る。

我々はプロフェッショナルを集め、増やし、躍動させ、「プロフェッショナル・エコノミー」を作り出すことで、この国の生産性を世界一にする。

コンサルティング・DXにおける構造的な課題

従来のコンサルティング体制構築には多くの無駄や制約が存在。



専門性のミスマッチ

必要な経験を持つコンサルタントが、そのタイミングで稼働が空いているとは限らず、新卒など未経験者がアサインされるリスクが存在。



地理的制約

大手ファームの会社回帰などもあり、「東京限定」や「常駐前提」の働き方ではアクセスできる人材プールが狭まり、優秀な人材が獲得困難になっている。



都市部への知見集中

コンサルティングファームの高額なフィー体系が都市部へのナレッジ集中を招き、地方企業/自治体はプロの知見へアクセスしづらい。

これらの課題をリーンに(無駄なく)解決する、
テレワーク活用による企業変革のスピードと成功確率を高める取り組みを実施

テレワークを前提に、全国から最適な専門家を集結させるハイブリッドチームを構築

最適な専門家を、最適なタイミングで、必要な分だけアサインすることで、企業変革のスピードと成功確率を高める。

協業のモデルケース

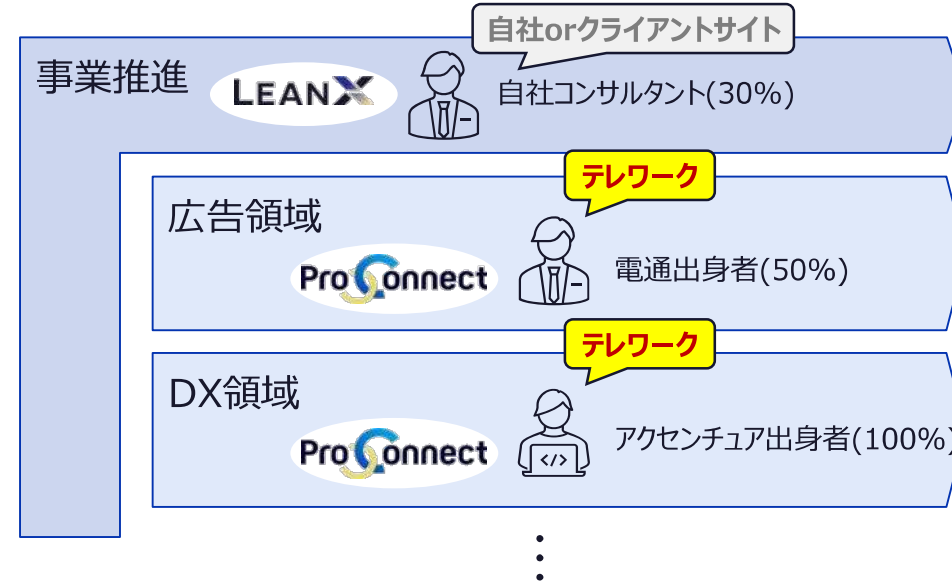
課題の特定・解消方法の検討

- ✓ 自社コンサルタントを中心としつつ
必要なタイミングでフリーランスと協業



課題解決に最適なチームの組成

- ✓ 自社コンサルタントが事業全体の推進をしつつ、
各領域の専門家が実行支援



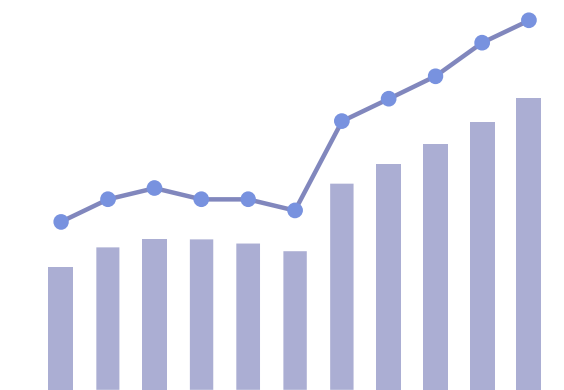
フリーランスを活用する理由

ハイスキル人材を柔軟に活用することで、ピンポイントかつリーズナブルに、多様な分野での課題解決を実現。

フリーランス人口の増加



フリーランス人口と構成比推移(予測含む)
(万人)



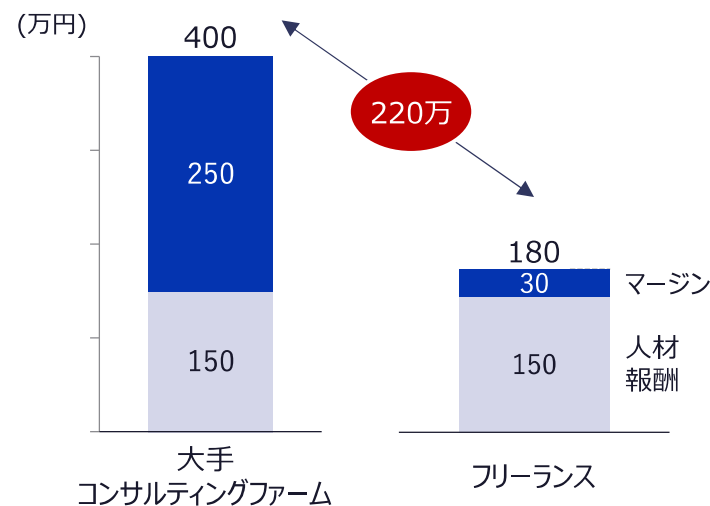
2015 2016 2017 2018 2019 2020 2021 2022 2023 2024 2025
※出典：総務省統計,就業構造基本調査

現在、**労働人口の約30%がフリーランス**であり、特にコンサルタントにおいては優秀な人材ほど独立する傾向があることから、フリーランス市場には優秀な人材が多くに集積しています。さらに、**今後大幅な増加が見込まれている市場**です。

リーズナブルな価格

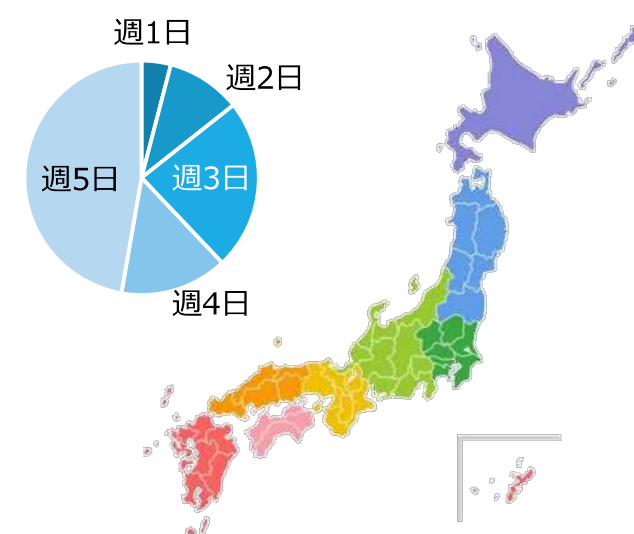


マネージャー相当の人材への月額単価比較



フリーランス(特に弊社)は高額なマージンが発生しないため、**大手ファームに比べリーズナブルな提案や柔軟な組織組成が可能**となり、案件獲得につながっています。大手ファームの新卒と同等の金額で、大手ファームの元マネージャーがアサイン可能です。

全国各地/柔軟な働き方



フリーランスは稼働率や勤務場所が柔軟であり、かつ、報酬も会社員時代より高くなるため、**大手企業での経験を持ちながら東京を離れて地方で暮らす人材が増加傾向**。地元の盛り上げに意向が高い方も多く、地域での活躍も見込めます。

テレワークと出社の意図的な使い分け

「出社」と「テレワーク」に明確な意味を持たせ、コンサルティング品質と働き方の柔軟性を両立。

出社の理由



✓ 密なコラボレーション

偶発的なアイデアの創出や、温かみのあるフィードバック、複雑な問題のホワイトボードを通じた即時解決などを実現。

✓ 意思決定の伴走

クライアントの温度感を感じ取り、重要な決断を物理的にもサポートする。

テレワークの理由



✓ ライフステージの制約を外す

育児や介護などがあるプロフェッショナル含め、ライフステージに縛られない人材調達を可能にする。

✓ 全国から専門性を集結

特定のニッチな知見を持つ人材を、日本中（あるいは世界中）からアサイン。



「なぜその場所で働くのか」を組織として言語化

プロフェッショナル人材を取りこぼしなく集め、増やし、躍動させるための必要条件

コラボレーションを支えるためのはたらく環境

「出社」×「テレワーク」、「社員」×「フリーランス」のコラボレーション最適化を目指した環境を設計。

🔧 オフィス設計

➤ ミーティングブース (写真左奥)

- 「予約制」と「予約不要」のブースを多数設置。
- オンラインMTGへの切替が瞬時に可能。
- 自席でのMTGがなくなり、フロアの静音性を保ち、集中力を阻害しない。

➤ フリースペース (写真右側)

- 出社メンバー同士の偶発的なコミュニケーションでカジュアルな会話から、新たなアイデアや共創が自然に生まれる場として設置。

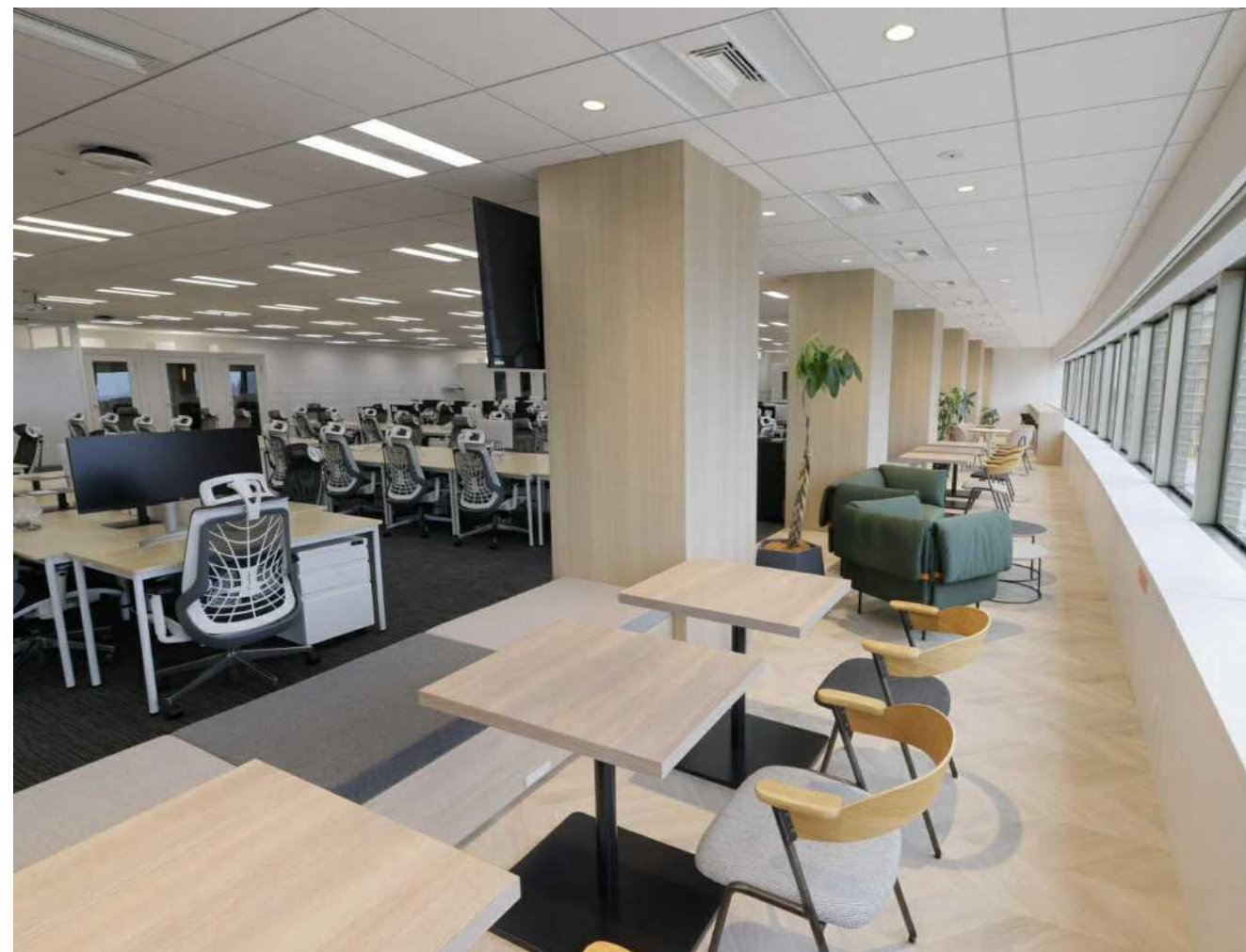
🔧 ツール基盤

➤ Slack

- プロジェクト単位のチャンネル設計で非同期コミュニケーションを円滑化。

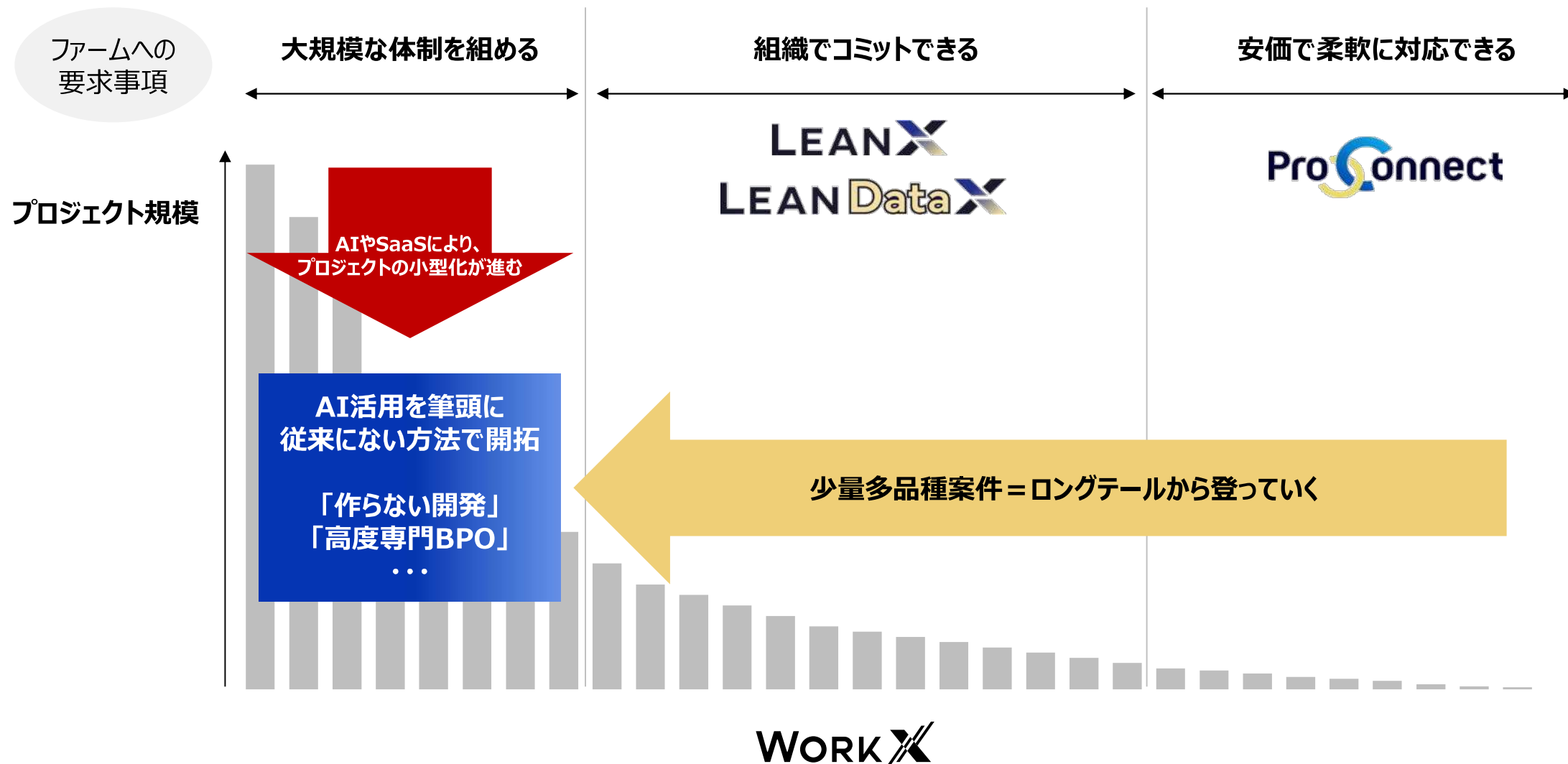
➤ Google Workspace

- クラウド上でのリアルタイム情報共有。
- Gemini等のAIも全員利用可能とし、業務効率化の文化を醸成。



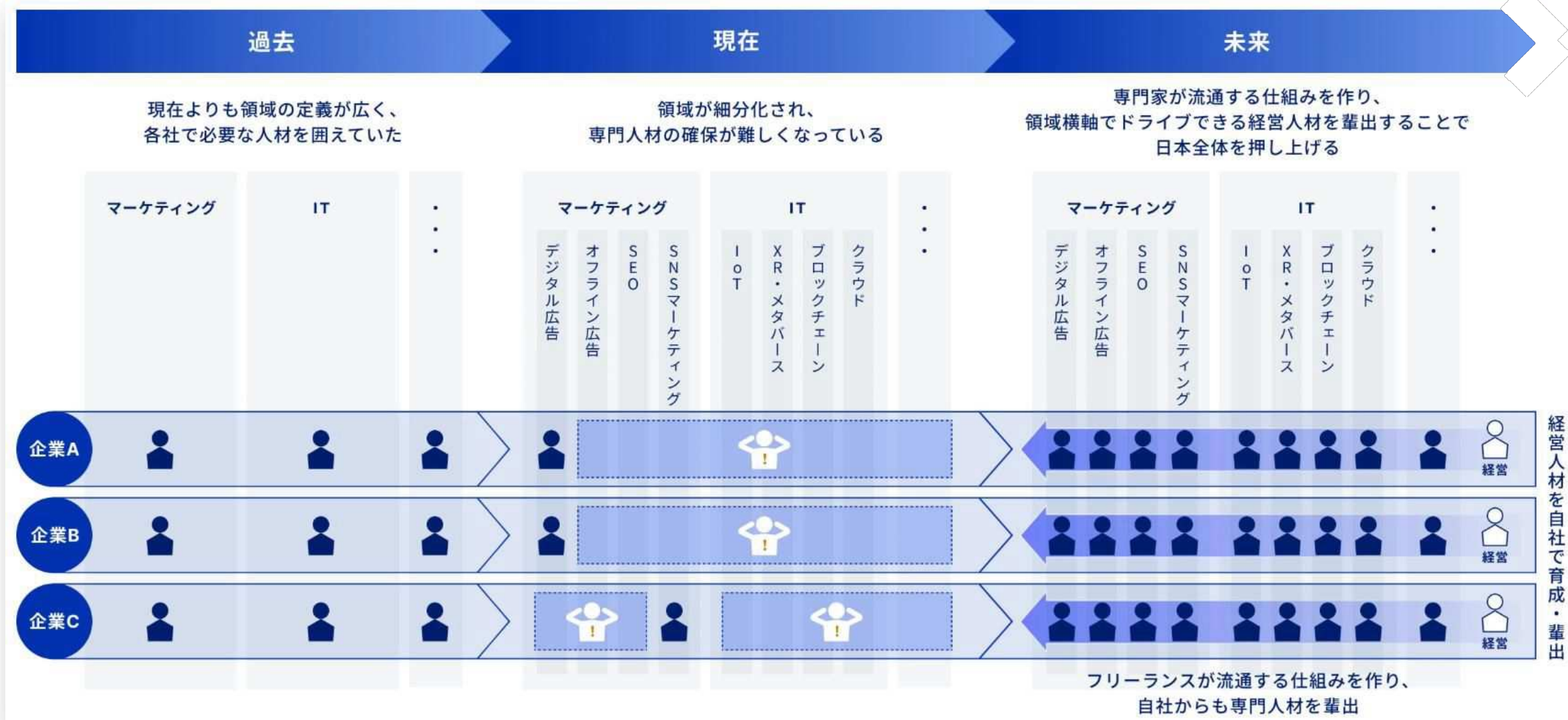
少量多品種の案件支援にて今すぐ価値を届け、AI活用で大規模領域にも挑む

小規模はProConnect、中規模はLeanX、大規模はAIやSaaSなどを駆使し規模を小さくして山を切り崩す戦略。



専門家の流通と経営/専門人材の輩出により日本経済を発展させる

専門家の流動性を高めるインフラとして機能し、同時に経営人材・専門人材を輩出する核となることで、日本の生産性を押し上げる。



WORK 

